

肉製品、乳製品製造業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	19~20	製品課クリーンルーム内で、コンベアの下を潜り抜けようとしたところ、コンベアの向こうにあったテーブルの角にぶつかり、額を切り出血した。	51	100~299
2	14~15	パレットを積み上げている作業場でパレットの上の商品（鶏肉）を下へ降ろすため、パレットの上に上がり、5kg程の商品を持ったまま、高さ2m位あるパレットの上から飛び降りた。その時、かかとから着地し、足に痛みを感じた。	24	1~9
3	2~3	被災者はチーズの入ったトレーを10段積み、台車で運搬する際に、ケースのバランスが崩れそうになったため、ケースを支えようとして右手を打ちつけてしまい、小指を負傷した。	42	100~299
3	14~15	原料冷蔵庫入口前にてサンテナを2山同時に片づけている時に、人を避けようとしてサンテナに躓き胸を強打した。	53	50~99
5	11~12	豚肉の加工場内で、両手で原料の入っているタンクを引っ張っていたところ蓋が外れて、そのはずみで積んであったプラスチック製のカゴにぶつかり、腰と脇腹を強打した。当初は少しの痛みだったが、痛みが増し、立ち上がる時に激痛が生じた。	64	30~49
6	17~18	ヨーグルト充填終了後、機械の洗浄作業をしている時、洗浄液を抜く為、2階の作業室から1階の調合室へ下りた際、階段の下にホースがあることに気づかずに踏んでしまい、右足を捻った。	40	50~99
		当社工場内において、午前中の食肉加工業務終了後、床（コンクリート）をホウキ		30

6	11～ 12	で清掃中、作業台（ステンレス製、高さ40cm×幅50cm×50cm）に気付かず、左大腿部を強打し転倒した。（左大腿部骨折）その際、床で左肩を打ちつけ、打撲負傷をした。	45	～ 49
7	10～ 11	冷蔵庫内においてクレートに入ったヨーグルトをパレットの上に積もうとした時、左足をパレットとパレットの間に挟んでしまい反動で右肩を積んであるクレートにぶつけ負傷した。当日はたいした事はないと思い医療機関にかからなかったが、後日痛みが酷くなり整骨院に行った。	59	30 ～ 49
9	16～ 17	会社施設内第2工場清掃作業中、バケットコンベアの汚れを拭こうとした際、汚れている位置が高く手の届く範囲ではなかったため、その場でジャンプし、ダスターで瞬間的に汚れを拭き取ろうとしたところ、バケットコンベアのカバー部分に右手薬指と小指の間を強打し、着用していたゴム手袋も切れ、裂傷した。本来であれば踏み台を利用して作業することになっていたが、汚れ部分が小さかったため、踏み台を用意する時間を短縮しようという本人判断があった。	60	50 ～ 99
12	11～12	派遣先、第一製造グループ内梱包作業場にて冷凍食品の梱包作業中、梱包中の加熱用カゴが重なった状態で何ヶ所かに点在し、場所にゆとりがなく床に氷の破片も散らばっていて滑りやすい状態だった。作業終了間近で気持ちがせいていた為、振り向きざまに足を滑らせ体勢を崩した所、加熱用カゴの角部分に脇腹付近をぶつけた。	49	50 ～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html